

マルタ島の環境と外来植物

大賀 二郎※

The alien plants in Malta islands

Jiro OGA

はじめに

地中海のマルタ島は、現在も中世の時代に築かれた城壁に取り囲まれた要塞島である。内部のほとんどは人工の構築物によって占められている。このような環境で植物の生育はどのようになっているか。2005年12月13日～同20日、マルタ島を訪れる機会をえたので現状を報告する。

マルタ島の環境と歴史

マルタ島は、シシリー島パッサロ岬から南72 kmにある。北緯36° 東経14° にあってユーラシア大陸とアフリカ大陸との間の地中海のほぼ中央部に位置する。マルタ島は、コミノ島、ゴゾ島など316km²の群島で

構成するマルタ共和国のうち最大の島である。海岸線は変化が多く、絶壁、洞窟などがある（写真5, 6）。地中海性気候で、年平均降雨量は560mmで、雨は冬季に集中する。マルタ島の地質は、第三紀中新世の石灰岩と部分的に粘土層からなる。このようなことから島全体は岩場が多く、水不足で乾燥し、農業は発達しなかった。工業は、造船、繊維、食品加工業などが時代により発達していた。

マルタ島は、独自の古代文明が栄えた時代もあったが、立地上古来から両大陸の交易の基地となり、また戦略上の要衝となっていた。紀元前800年頃フェニキア人植民地となつてから、カルタゴの侵入、ローマ帝国の支配、ゲルマン人、バンダル人、ゴート族の侵

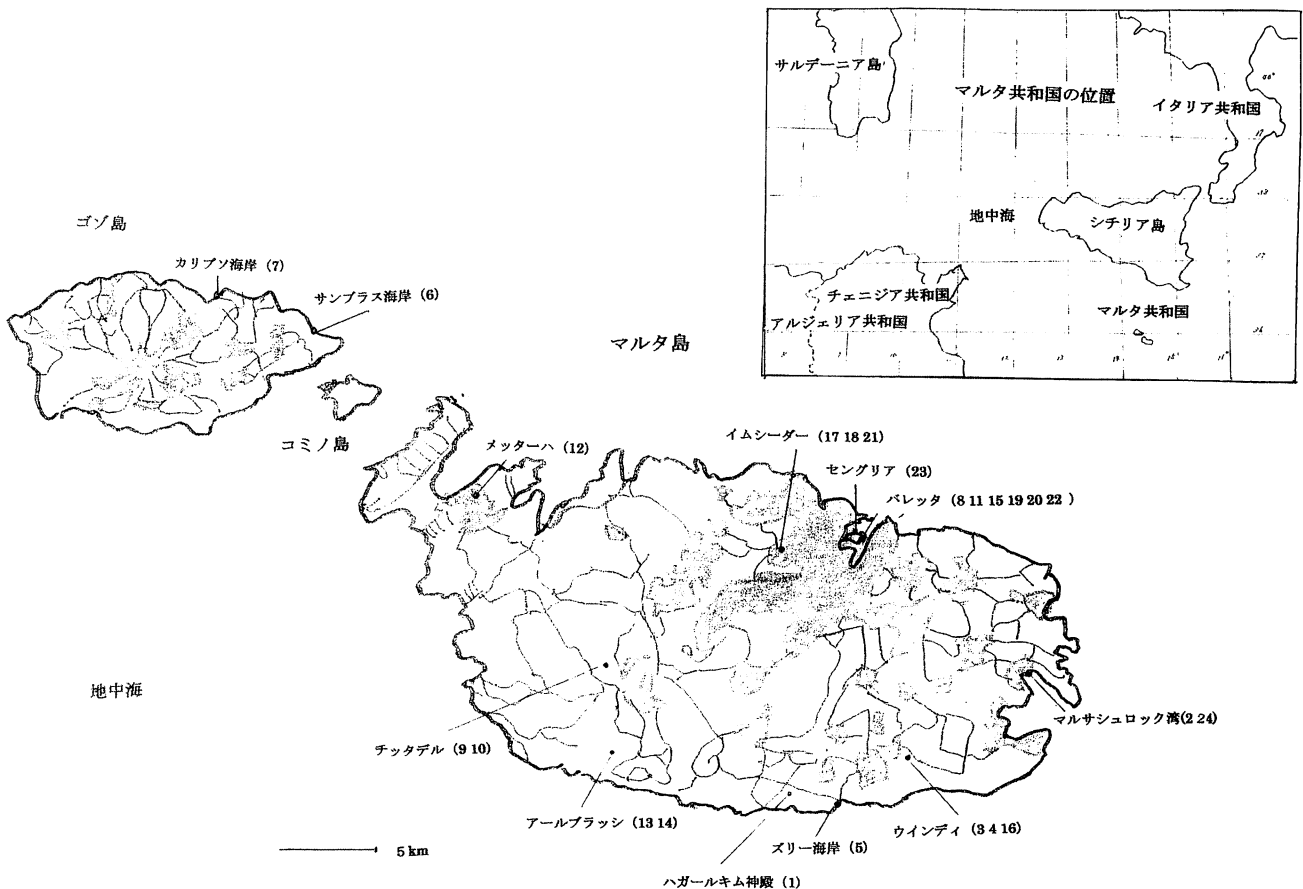


図1 マルタ共和国の都市化と外来植物の分布（黒塗り部分は都市部 線は道路網 地名の括弧内の数字は写真番号を示す）

※森羅万象の館 博物館学芸員

入、アラブの支配、シチリアの侵入などがあって、中世はおおむね聖ヨハネ騎士団の支配が続いていた。現在の岩を積み上げた城郭はこの時代のものである。近世になって、イギリスの海軍基地となったが、1964年独立した。このような人の移動はマルタ島の生態系に少なからず影響を及ぼしたものと思われる。

島の海岸線は、16世紀頃造られた堅牢な城壁で取り囲まれ、さながら軍艦島の様相をしている(写真19)。内部も城郭、神殿、宮殿、住宅など重厚な石造建造物が立ちほだかり、その間を石畳の道路が縦横に走っている(写真22)。外観を見る限り、そこは植物の生育できる環境ではなく、立ち入るすき間がないようにも思えるが、城壁や廃墟の間隙には蔓性植物や灌木が茂っている(写真15, 16)。また廃墟の水道などにはアジアンタムの群落がある(写真21)。

マルタ島の植物相と外来植物

マルタ島は、氷河時代はシシリー島を挟んで大陸と繋がっていたが、氷河時代の終りに海面が隆起し、島となった。大陸と繋がっていたときは、小型ゾウなど哺乳類が息していたが、現在は大型哺乳類は生存していない。植物は、中世以前は森林帯があったが、文明に起因する伐採により消滅した(遠藤三千雄 年不詳)。現在、山野のほとんどは裸岩、灌木そして草本地帯になっている(写真9, 10, 11, 12)。石灰岩の地層からは海産生物の化石が大量に産出する(写真7)。先住民族は紀元前5,200~4,100年頃から定住していたので、そのころからの耕作地が一部に残っている。

マルタ島の植物は、1,200種が記録されている(遠藤三千雄 年不詳)。人の出入りが激しかったので、植物相もそれにつれて変動し、固有種と外来種の区別が厳密につかなくなっているように思える。

(Buhagiar 1990)。の図譜には次の種類の記載がある。これを見ると固有種のほか、外来種が多い。また一般的に亜熱帯の乾燥に耐える種類が多い。

ツルナ的一种ツルナ科 (*Tetrago nolobus purpureus*)

アオバナイチネングサ ベンケイソウ科

(*Sedum caeruleum*)

フクジュソウの一种キンポウゲ科 (*Adonis annua*)

カラクサケマン ケシ科 (*Fumaria officinalis*)

トゲフウチョウソウ フウチョウソウ科

(*Capparis spinosa*)

カラスノエンドウ一种マメ科

(*Hydsanurm conatium*)

カタバミ カタバミ科 (*Oxalis pescararas*)

トウダイグサの一种 トウダイグサ科

(*Euphorbia sp.*)

ルリハコベ アカバナ科 (*Anagallis caerjea*)

エキウム ムラサキ科 (*Echium parviflorum*)

ルリジサ ムラサキ科 (*Borago officinalis*)

サンシキヒルガオ ヒルガオ科

(*Convulmus althaeoides*)

ツルニガクサ シソ科 (*Teucrium fruticans*)

ヤグルマギク キク科 (*Centaurea crassicansns*)

シュンギク一種 キク科

(*Chrysanthemum coronarium*)

クマアザミ キク科 (*Galactitie tomentose*)

オランダフウロソウ フウロソウ科

(*Erodium malacoides*)

アカバナムグラ アカネ科 (*Sherardia arvensis*)

スイセン ヒガンバナ科 (*Narcissus tazetla*)

クラウンデジー キク科 (*Antirrhinum siculum*)

アロム サトイモ科 (*Arum maculatum*)

固有種で顕著なものにマツバギク(写真13)。やウイキョウがある。岩場には陽光のためか、花の鮮やかな小草本が多い(写真17, 18)。

外来植物は、アフリカ、南アメリカそして最近はおセアニアや東南アジアの種が入ってきて定着している。海岸の絶壁にはリュウゼツランが巨大化し、開花したものが多く(写真2)。城内には高木となったチリーマツ(写真8)が城郭の点景となっている。そして最近ユーカリが街路樹として植栽されている。民家周辺にはウチワシャボテンの群落が目につく(写真4, 20)。遺跡の陰にはアロムが群生していた(写真3)。海岸の陽地にはマツバギク(写真13)やウイキョウが多い。海岸の荒地には外来植物が押し寄せている(写真14)。また民家に栽培されていた園芸・観葉植物などが逸出し、裏庭や屋外の樹木などに定着したものが多く。次ぎのものが目に付いた。ヤシ (*Palm*) ヤシ科、ブーゲンビリア (*Bougainvillea*) オシロイバナ科、モンステラ (*Monstera*) サトイモ科、アンズリウム (*Anthurium*) サトイモ科、フィロデンドロン (*Phylodendron*) サトイモ科、ハイビスカス (*Hibiscus*) アオイ科、セフレラ (*Schefflera*) ウコギ科、セントポーリア (*Saintapaulia*) イワタバコ科、アナナス (*Ananas*) アナナス科、カトロマンテ (*Stomsnthe*) ウコン科、ドラセナ (*Dorasena*) ユリ科などであたかも固有種のように風景に溶け込んでいる。

おわりに

- 1 都市内部の居住空間は、圧倒的な城壁、石造群に囲まれ、その中を迷路のような石畳の小道が走っていて、緑地はほとんど存在しない。しかし石材の放つ冷氣のためか内部にいても暑さや息苦しさは感じなかった。
- 2 森林、田園、放牧地、河川、湖沼などが少なく、

海岸の砂浜や干潟も限られる。湿生植物や野鳥の姿もあまりない。羊は放牧されていないが、各地で飼育されている。島内には野生動物は殆どいない。広々とした裸岩の丘陵が眩しい地中海的風景である。風の道である（写真1）。

- 3 ヨーロッパから至近距離にあるリゾート地であり、小さな島に三つの世界遺産がある。見晴らしのよい台地にあり、海に囲まれているので犯罪が少ない。主要な観光地として発展しつつある（写真23）。
- 4 フロンテア緑化として、街路樹などにオーストラリア産のユーカリが用いられている。乾燥に強いことと、成長が速いことが理由と思われるが、地中海の景観に馴染むかどうか。また他の樹木を圧倒し、種の多様性がなくなりはないか。懸念がある。
- 5 マルタ島の植物環境は、人間が定住してから、鉄と大理石の都市空間に二次的に形成されたもので、人為的な要素が多い。今後のマルタ島の開発は、人工と自然の調和を目指したランドスケープデザインを描きながら進められるだろう（写真24）。

引用文献

- 遠藤三千雄. 年不詳. Malta & Gozo. Malta Tourism Authority.
- Buhagiar. V. 1990. Wild Flora of the Maltese Islands. Folkprints.



写真1 強風で傾斜する樹木 (ハガールキム神殿付近)

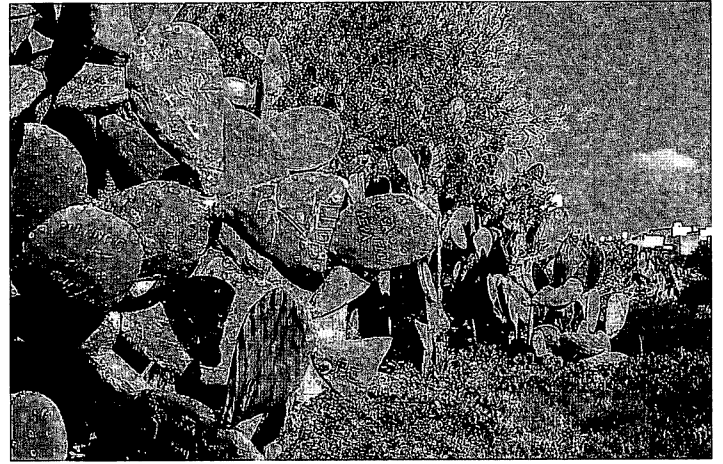


写真4 ウチワシャボテン (ウインディ)



写真2 開花するリュウゼツラン (マルサシュロック湾)

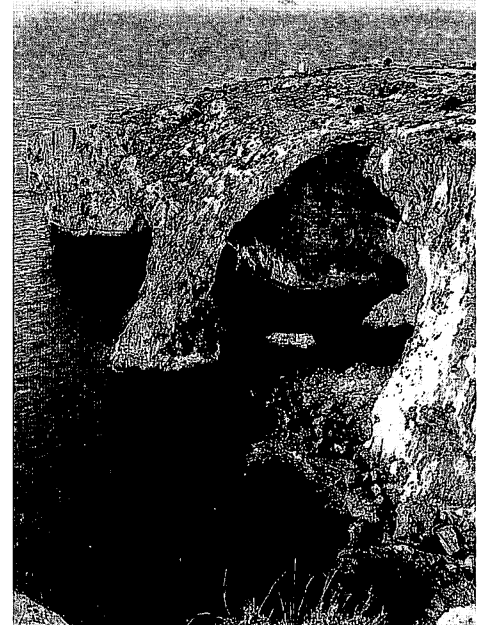


写真5 ブルーグロット (ズリー海岸)



写真3 遺跡に入りこんだアロム (ウインディ)



写真6 ゴゾ島の海岸 (サンブラス付近)

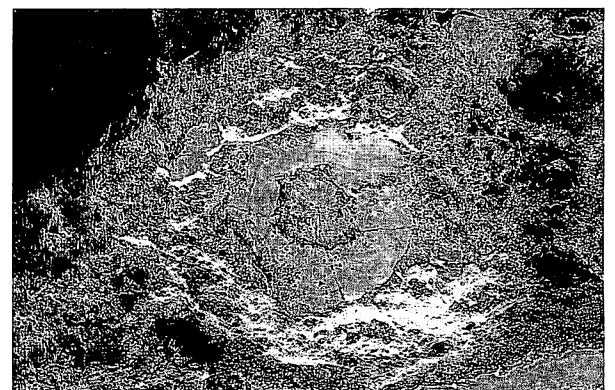


写真7 カシバンの化石 (カリブソ洞窟付近)



写真8 城郭内で目立つチリーマツの巨木 (バレッタ)

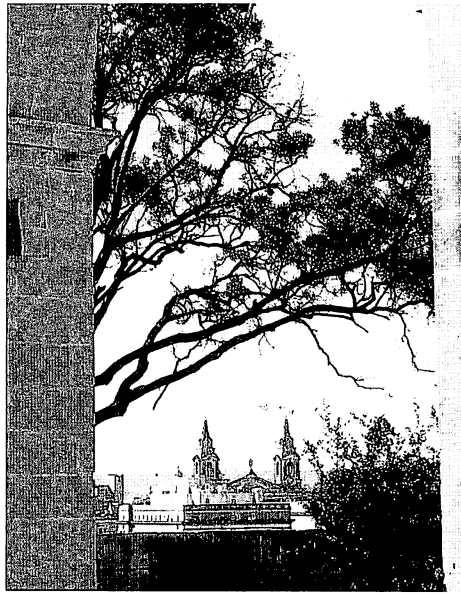


写真11 城壁内の樹木 (バレッタ)

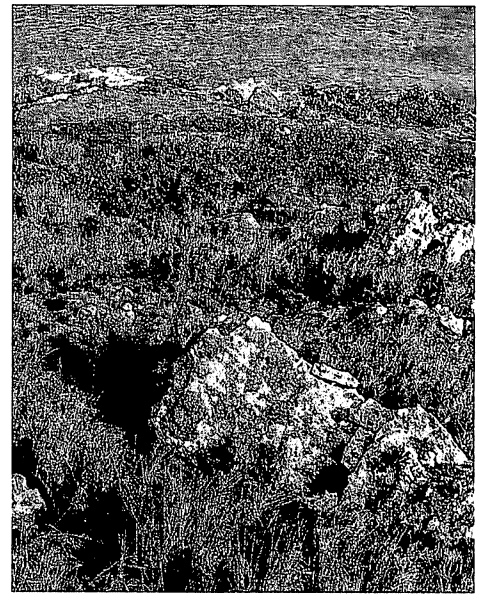


写真14 海岸に侵入する外来植物 (アールブラッシ)



写真9 荒地の樹木 (チッタデル)



写真12 灌木内に混在するユーホルピア (メリーハ)

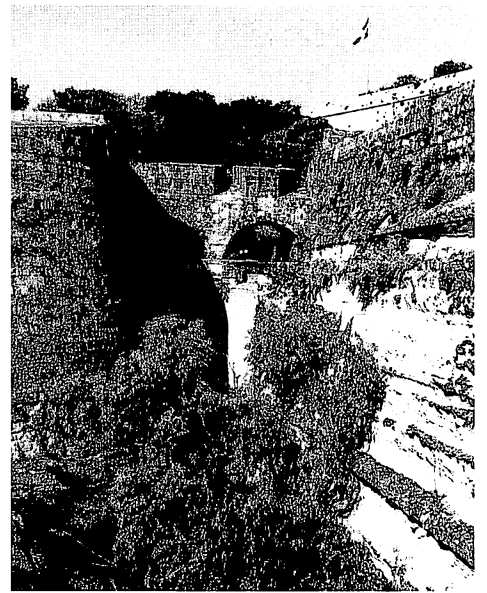


写真15 城壁を攀じる蔓性植物・灌木類 (バレッタ)

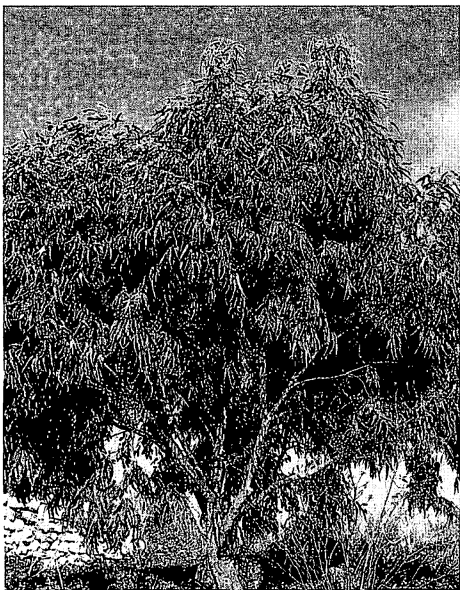


写真10 裏庭の樹木 (チッタデル)

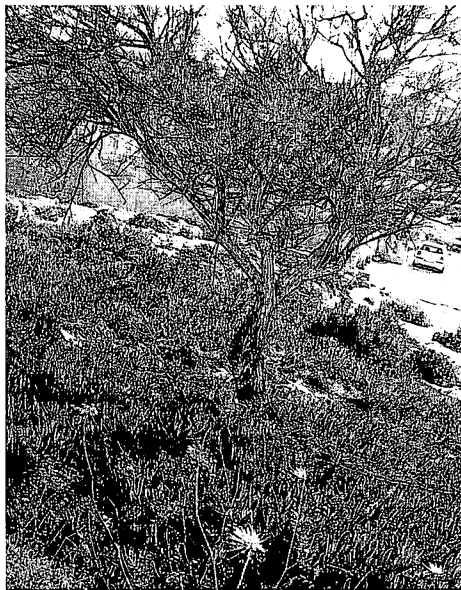


写真13 マツバギクの群落 (アールブラッシ)



写真16 廃墟を埋める外来植物 (ウレンティ)

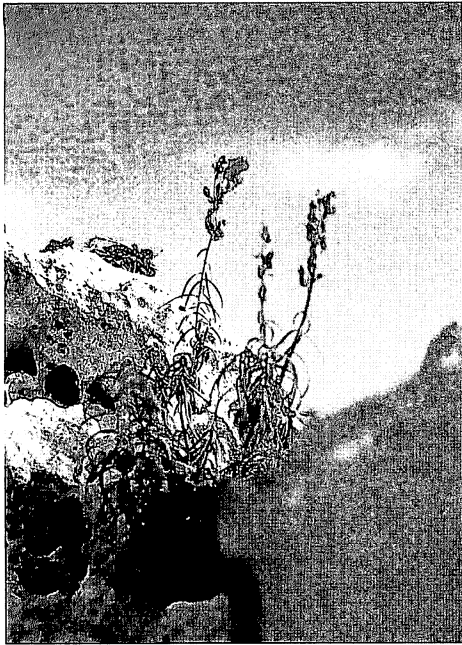


写真17 岩上のホソバウンラン
(イムシーダ)

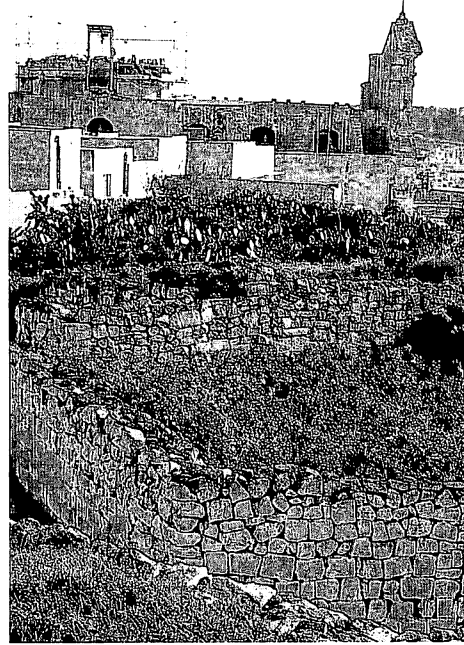


写真20 裏庭のウチワシャボテン
(バレッタ)



写真21 地下水堂に侵入するアジアンタム
(イムシーダ)



写真18 岩場のクラウンデジー
(イムシーダ)

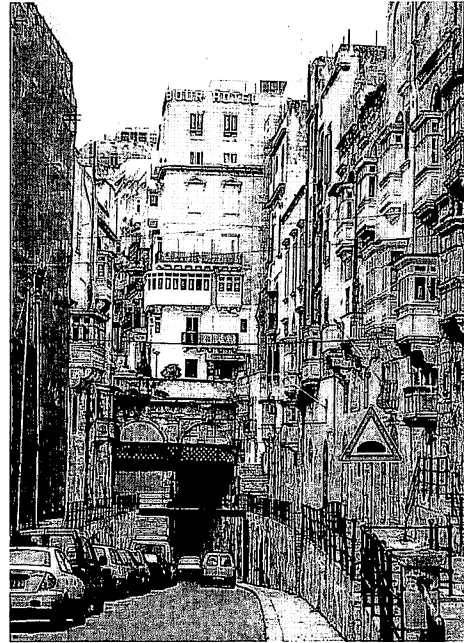


写真22 スリーシティズの街中
(バレッタ)

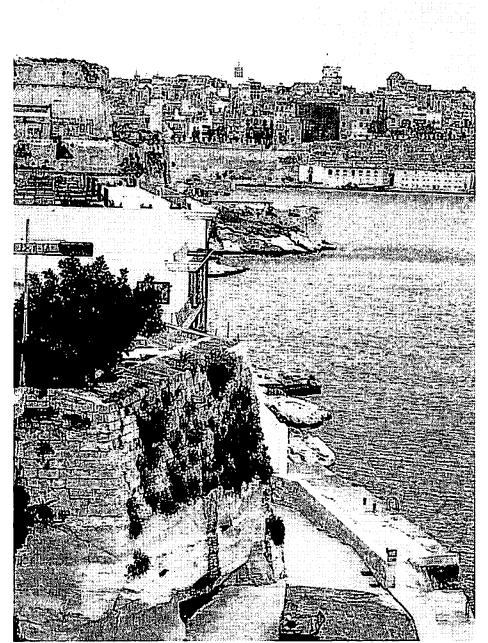


写真23 セングリアの埠頭

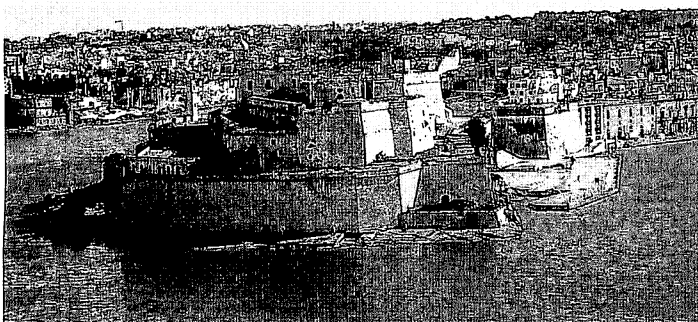


写真19 要塞都市バレッタ (バレッタ)

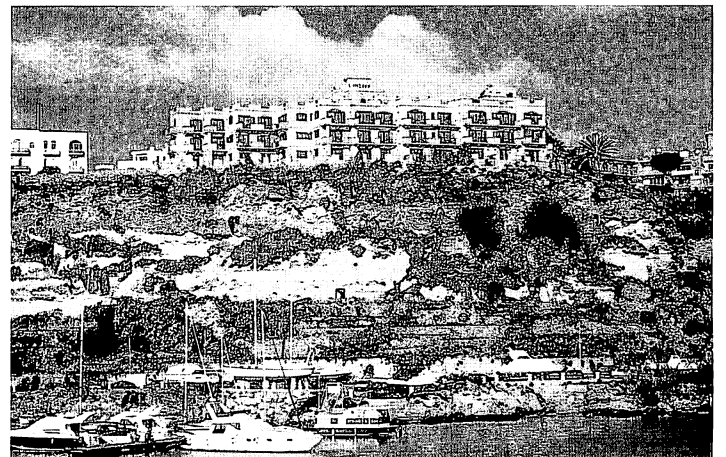


写真24 マルサシュロックのリゾート